

新潟県中越大震災での動物救済活動

Animal Rescue Activities after the 2004 Niigata Chuetsu Earthquake

新潟県 新発田食肉衛生検査センター 所長・川上 直也
Naoya KAWAKAMI, Director,
Niigata Prefecture Shibata Meat Inspection Center



○川上直也

皆様こんにちは。雪深い新潟県から参りました。実は今朝、飛行機で来る予定だったのですが大雪警報が出ていましたので、昨日、事務所の職員から「所長、早く行ったほうがいいですよ」と進められて急遽こちらのほうに來させていただきました。おかげさまで今朝ゆっくりさせていただきました。

私は、平成7年に発生した阪神・淡路大震災で被災した神戸の地でお話しをさせていただくことに対し、大変光榮に思っております。また、3月11日に発生した東日本大震災ではたくさんの皆さんが亡くなられ、そしてたくさんの暮らしが壊されました。被災された皆様にはお見舞い申し上げます。

私どもも、平成16年10月でございますが、新潟県中越大震災を経験いたしました。阪神・淡路大震災以来の震度7という大きな地震でございました。規模はそれぞれ違いますが、同じような思いを経験いたしました。

その当時、私は新潟県生活衛生課動物愛護・衛生係長という立場で、動物の担当をしておりましたので直接動物にかかわる仕事をさせていただきました。その経験から、災害時にどのようにしたら良かったか、今後はどうすべきか、いろいろ勉強をさせていただきましたので、今日お話しをしたいと思います。

私の家から歩いて10分ぐらいのところにある新潟市青山海岸には、うちの犬も含めて、毎日犬達が集まってきました。今は雪があって駄目ですが、春になると犬を連れての方がたくさん集まる場所となります。さまざまな思いを持った方々が集まってきました。

奥様に先立たれて犬と一緒に生活をしておられる方がいます。あるとき何気なくペットショップをのぞいたら売れ残りの大きい犬がいたそうです。その犬を見たらもうどうにも目が離せなくなって、ああ、僕を飼わなければと買って帰ったのだそうです。そして海岸に散歩に来ていましたら犬を連れての方々がたくさ

ん集まって来られて、そこで仲間になってお話しをするようになりました。それまでは朝からお酒を飲んでいましたが、お酒も控えて毎日運動をしておられます。

それから、両親の介護のために御主人と離れて、1人で暮らしておられる御婦人もいらっしゃいます。その方も「犬がいないとさみしくてだめなんです」というお話しをされています。

ここにはテレビ局のアナウンサーの方もいらっしゃいます。「自分はマンション暮らしで犬が飼えないけれども、犬に会いたくてここに来ます。海岸に集まってくる仲間と一緒に話をするのが楽しみです。」とおっしゃっています。

我々は動物を救うとことで、動物から救われているところが相当あるのではないかと思います。

これはある犬の写真です。犬の飼い主が一昨年(2012年)の8月に新潟県の観光地に犬を連れて行って、車の外につないでおいたんです。でも、誰かに放されて犬がいなくなりました。一生懸命探したんですけども見つからず、飼い主は新聞に折り込みを入れ、毎週現場に通って必死になって探したんですが、なかなか見つかりませんでした。新潟県は雪深いですから、放された犬は冬を越せないんですが、翌年になってどうも行方不明になった犬と似た犬がいるとの情報がありました。保健所が保護に向かったんですが、どうして



【スライド1】



【スライド 2】



【スライド 3】

も保護できませんでした。ところが、この犬が、毎日あるお宅の猫のえさを食べに来ていることがわかりました。そのお宅では「この犬だよ」と写真を撮ってくださいました。その時の写真です。そして、最後にそのお宅が犬を保護できるように玄関を改造してくださいまして、11 か月ぶりにやっともとの飼い主の元に帰ることができました。飼い主の方は非常に喜んでおられました。【スライド 1-3】

この度の震災で動物と離れ離れになった方々は、同じ思いをしている方がたくさんいらっしゃるだろうなと思います。

これは、全国の犬猫飼育率です。ペットフード協会のデータです。15 歳未満の子供の数より犬、猫の数のほうが多いんです。これだけのペットが人と一緒に生活をしています。【スライド 4】

我が家も 3 歳で保健所に出された犬を引き取って飼っています。今は隣の布団で一緒に寝ています。感染症の面から言えば問題かも知れませんが、今はすっかり家族の一員です。このようなことも我々は考えておかなければならないと思っています。

ここからは、中越大震災のお話をさせていただきたいと思います。震災は、平成 16 年 10 月 23 日に発生いたしました。

全国犬・ねこ飼育率

平成 23 年ペットフード協会・総務省 (万)

犬	1,194 頭
屋内猫	961 頭
合計	2,155 頭
15 歳未満子供	1,693 人

【スライド 4】

私は当時、動物愛護・衛生係長として勤務していましたので動物の救済活動をやりました。この活動は、地震により全村避難した山古志村に置き去りにされたペットをヘリコプターで救援に行ったことから話題になりました。

この地震での対応ですけれども、当時の地域防災計画の中に動物の救済のことは何も記載がありませんでした。ですから、活動自体全く初めてのことだったんです。



【スライド 5】

はじめに

平成 16 年 10 月 23 日午後 5 時 56 分、新潟県中越地方を震源とする「新潟県中越大震災」が発生しました。

我々は、地震発生の 2 日目から動物の救済活動を開始し、4 日目から全村避難した山古志村に残された動物たちの給餌・給水活動を開始しました。

手探りの中での動物救護活動でした。

なお、この対応は同年に発生した「7.13 新潟豪雨災害」での動物救援活動が基にありました。

【スライド 6】

私はこの年の 4 月に県庁に赴任して 7 月に新潟豪雨災害がありました。この豪雨災害での活動が動物救済活動の始まりでした。【スライド 5】【スライド 6】

平成16年7月13日に河川が氾濫して、たくさんの人々が避難しました。その様子がテレビに映りました。私は何気なしに、家でテレビを見ていましたら、ペットを連れて方が避難所にいらっしゃったんです。そのときにその避難された方が「食事がなかなか届かないんです」とお話しされていたんですね。そのような状況ではペットのえさも足りないのではないかと思い、ペットのフードを避難所へ配りました。それからペットの排せつにも困っているだろうと思い、排せつ物の処理袋を配るという仕事を行いました。【スライド7】

新潟県は連続して災害が発生しています。昨年の7月は、16年当時と少し離れたところで同じような災

害が起りました。災害は繰り返して発生しますので準備をしておかなければならないということです。

これは、当時の被害状況です。ここでは、動物の預かりをやりました。これらの活動を最初にやるのにはとても労力がいらいます。行政としてやるためには上司を説得して、県の幹部のオーケーをもらわなくてはなりません。その時、どのぐらいの期間がかかるんだと聞かれて答えられませんでした。上司は「わかった、いいよ」と許してくれました。水害になりますと、家が流されなくても家の中の泥を洗ったり、道路を新しく作ったりという時間がかかります。それから支援物資も提供しました。【スライド8】【スライド9】

7.13新潟豪雨災害

- 平成16年7月13日梅雨前線豪雨により新潟県の中越、下越地方の河川の氾濫、堤防の決壊、地滑りなどの土砂災害が発生し、死者15人、住宅19,000棟余りが全半壊等の被害を被った。
- 被災地の動物は、飼い主と共に避難所で飼育されていたが、餌の不足や排泄物の処理に苦慮している状況が見受けられた。また、自宅に帰った被災者も飼育場所に苦慮している状況が見受けられた。

【スライド7】



【スライド10】

7.13新潟豪雨災害被害状況

○ 人的被害状況(人)

死者	重症	軽傷
15	1	1

○ 家屋の被害状況(棟)

全壊	大規模半壊	住宅浸水	合計
32	157	18,863	19,052

【スライド8】



【スライド11】

7.13新潟豪雨災害での動物救援

- 動物預かり
7月15日～9月10日まで(58日間)
保護動物38頭(犬、ねこ、うさぎ)
- 支援物資の提供
犬用フード 1,760缶
猫用フード 1,300缶
排泄物処理袋 1,900袋
ポケットティッシュ 2,500個
- 負傷・疾病動物の治療(県獣医師会協力病院)
診療70頭、預かり60頭

【スライド9】

当時、私は県の獣医師会の理事もやっておりましたので、動物病院に緊急に助けてくださいというお話しをして、獣医師会からも御支援をいただきました。

このとき初めて東京に緊急災害時動物救援本部があることがわかりました。

また、日本動物愛護協会から「何か足りないものはないか」というお電話をいただきましたので、「お金がなくてペットフードがなかなか買えないんです」とお答えしましたら、ペットフード協会がたくさんフードを送っていただきました。

そのフードとか物資は避難所に配置すると同時に、被

災地へ配布いたしました。【スライド 10】【スライド 11】

ここからは、預かり事業ですけれども、新潟県は今年の4月ようやく動物愛護センターが完成します。ですから当時はペットを預かれる場所がない状態でしたので、建物の通路にケージを置いてその中で預かりました。休みの日には飼い主に会ってもらえるようなかたちにいたしました。猫舎もなかったので、猫のケージを部屋に集めて、夏でしたので急遽クーラーを設置して対応しました。【スライド 12-14】



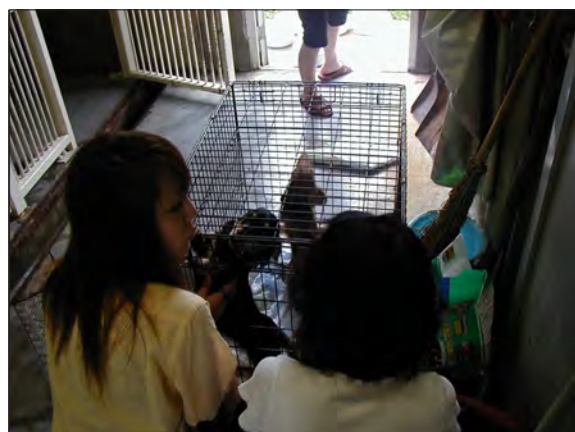
7.13新潟豪雨災害 預かり事業

【スライド 12】



7.13新潟豪雨災害 預かり犬

【スライド 13】



【スライド 14】

豪雨災害後の対応

- 物資の備蓄
- 動物保護管理センターを診療施設として届出
- 職員への治療、繁殖制限手術実習の開催
- 動物保護管理センターへの手術器具、医薬品の配置

【スライド 15】

そして、次の災害に備えるため、たくさんいただいたペットフードを備蓄いたしました。この備蓄についても県の幹部の所へ許可をとりに行きましたら、「へえ、動物もいよいよ災害用フードを備蓄する時代になったんだ、時代は変わったな」と感心されながら許可をさせていただきました。それから、県下5カ所にあった、動物保護管理センター（保健所に併設された小さな施設）を動物診療施設として届出しました。

それから、これまでは動物の苦情処理や引き取りなどが主な仕事だった職員に対して、最低限、繁殖制限手術や簡単な治療ができるように早速実習をさせました。

それから予算をとって、医療器具や医薬品を配置して、いつでも使えるように備えました。このときの対応が、まさにその年に役に立つとは夢にも思いませんでしたが、やっておいてよかったです。

ですから、気がついたときにやっておくと必ず次の対策につながるがよくわかりました。【スライド 15】

新潟県中越大震災の発生

【スライド 16】

ここからは、中越大震災の話です。これは私の自宅なんです。今私は、新潟市に住んでいますが、ここが私の実家です。震源地に近いところに実家があります。

これは震災の翌朝、写真を撮ったんですが、もし、発生時刻が夜だったら大変なことになっていたんだろう

などと思います。発生は、夕方5時過ぎでした。

弟がアメリカに住んでいるのですが、ちょうど日本に帰って来た時で、一緒にここで食事をしようとして一生懸命ごちそうをつくって待っていたところへ、最初の揺れがきました。はじめは、あまりの振動で何が起きたかわかりませんでした。

弟は新幹線が動かなくなりましたので途中からアメリカへ引き返しました。このとき私と親父は外にいましたが、家内とお袋が家の中にいましたので必死で連れ出しました。また、家の中に犬が残されていて家内が「犬を助けて」と叫んでいましたので助け出しに行きました。

その後、3日間屋外で生活しました。家の中は揺れるものですから怖くていられないんです。それで庭にシートを敷いてそこで休んでいました。夜は寒かったので車の中で暖房をつけて寝ました。

その間、ひっきりなしに県から私の携帯電話に電話がかかって来るんですが、すぐに切れちゃうんです。つながったと思ったら切れちゃうんですね。災害時に電話での通話はなかなかできません。どうしたかという、メールでのやりとりで連絡をとりました。家族の携帯電話が4台ありましたので、1台ずつ使用しました。メールだと一瞬で届きます。今私が勤務している食肉衛生検査センターでは、緊急連絡網の中に必ずメールアドレスが入っています。緊急の場合は電話が通じないからメールで連絡することとなっています。

県からのメールの内容は、「係長、動物救済活動をどうしましょう」という問い合わせでした。被災地では、テレビが見られない。ラジオは聞こえない状況で回りの様子が全然わからなかったんです。被害が広範囲にわたっており、私は仕事を失うかもしれない。これから、どうやって家族を食わせようかなどと考えていました。また、災害が起こったときに一々上司の決裁を仰ぐとか、県の幹部に話をして許可を得るとかということではできませんでした。誰かがそこで判断しなければなりません。ですから、私は、水害のときと同じ対応をとってくださいと指示をして、同様の対応をとりました。

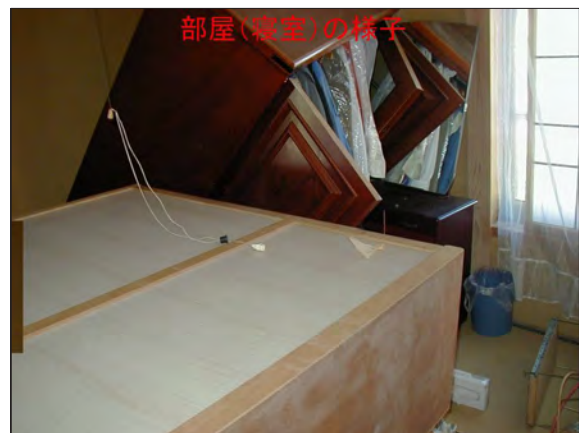
震災発生直後は、食料も何もありませんでしたので翌朝、私は町に出かけました。そうしたら緊急にコンビニと農協のマーケットが開いていました。そこに食料品がありましたので、あるだけの食料品を買って家へ持って帰りました。私は食料品と一緒に七輪と炭を買ってきました。家の中にカセットコンロはあったんですが家中がめちゃくちゃなのと余震がひどいので、家に入ってとってこることができなかったんです。



【スライド 17】



【スライド 18】



【スライド 19】

日頃ぜいたくをしているものですから、両親は「お湯がないと顔が洗えないとか歯が磨けない」とか言っていましたので七輪でお湯を沸かしてしのぎました。

それから、トイレが一番困りました。水洗ですので、水がないと流せません。仕方なしに庭の隅で用を足しました。

この時に近所の方から「役場から、お握りが支給されるそうです。いくついらいますか」と連絡がありましたが「うちは食べ物を買ってきましたから結構です」と返事をいたしました。その後、その近所の方が「川上さん、おにぎりが届かないんです」とまた私のところ

へやって来られました。

救援物資はすぐには届きません。ですから、自分で準備しなければなりません。

避難3日目となり、このままでは家族の生活がおかしくなってしまうと思い、県からのメールの情報をもとに何とか新潟市まで逃げてきました。

道なき道を越えて新潟市に向かいましたが、山を一つ越えたら、そこの人たちは普通に生活していました。食堂も開いているし、それから食料品も普通に売っていました。ですが、被災地の人はそんなことすらわからないんです。

私たちは、毛布とあるだけの食料品を持って車で出かけましたが、実際にはこの状況を見て、途中で安心して持参した食料品を食べて新潟市に帰りました。

【スライド 16-19】



【スライド 20】

被害状況

○人的被害状況(人)

死者	重症	軽傷
67	635	4,160

○家屋の被害状況(棟)

全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	合計
3,175	2,166	11,638	103,767	120,746

【スライド 21】

新潟県庁に災害対策本部が設置されました。知事がその震災の翌日に交代するという特殊な状況でした。

新潟市の自宅に到着しましたら、自宅は何も被害がありませんでした。そこでテレビを見てようやく自分たちのいた被災地の状況がわかりました。ですから被災された方々は情報が何もない。どうなっているのかわからない。この先どうなるかわからないという状況の中で生活をしていただんだなと思いました。



【スライド 22】

被害はどの災害でも一緒です。被災地へのアクセスが全部だめになりました。JRもだめになりました。新幹線も脱線しました。【スライド 20-21】

これは妙見堰(みょうけんぜき)という所です。ここに道が1本通っていたんですが、親子3人連れが車で通りかかって、車ごと崩れた土砂に飲み込まれました。そして、その中の男の子1人が72時間ぶりに救い出されました。【スライド 22】

これは、警察の警備犬レスター号という犬が発見したんです。この映像を私どもは県庁のテレビで見っていました。職員皆が助かれ助かれと祈りながら見ていました。助かった瞬間、みんなで拍手喝采だったんです。

この地震は新潟県の山間部で発生した地震でした。特に斜面の多い地域では被害が大きかったです。

この地域はニシキゴイの産地なんですが、ニシキゴイも129万尾が死んで、65億円位の損害があったそうです。

東日本大震災の津波でもそうだったようですが、物すごい悪臭を放っていました。そしてここへ衛生害虫が集まってきました。

これは先ほども山口先生のお話にあった避難所にテントを併設して、この中で飼い主がペットを自分で世話をする場所です。中におばあちゃんがいらっしゃって猫を2匹連れていました。「写真を撮らせて」と言ったら「撮って撮って」ということで撮影したんですけど、このおばあちゃんは、避難所にいると暇ですから、ペットのところへ来て遊んではまた避難所へ戻って皆さんとお話しをしているとのことでした。

当初、我々は、動物を連れて避難するというのは当然のことと考えていましたが、避難所によっては動物を受け入れてくれないところもありました。

避難所となる施設は、その管理者に許可権限がありません。例えば学校が避難所であれば、その学校の校長先生が、ペット受け入れの可否を判断することとなります。



【スライド 23】



【スライド 26】



【スライド 24】



【スライド 27】

す。

ですから、全ての避難所がペットを受け入れるというのは難しいんです。

災害に備えて、ペットの受け入れが可能な避難所を事前に周知しておかなければならないものと思います。

【スライド 23】【スライド 24】

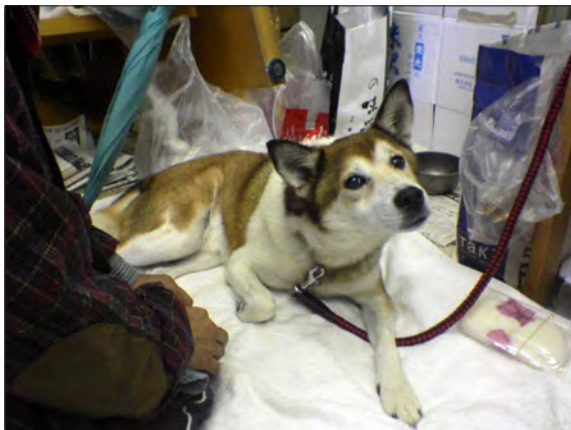
これは玄関で犬と一緒に避難している写真ですが、ごらんになってわかるように、部屋の中に入ってないんです。避難所の通路に布団を敷いて、そこでペットと一緒に暮らしていました。この飼い主は「管理者がどうぞ、中に入ってください」と言っても「いや、私はここで結構です。私はここでペットと一緒に

寝るほうがいいです。」と言って玄関にいました。やはり、飼い主は、ペットと一緒にいたいと思うでしょうし、ペットも飼い主と一緒にいたいと思います。猫はこの写真のようにケージで飼われていました。

【スライド 25-27】

我々が中越大震災で行った活動は、フードの提供、関連備品の貸与。それから自衛隊にお願いして、ペットと一緒に避難できるテントを10基設置してもらいました。

次に仮設住宅の問題です。私は、最初に県の土木関係の部署に「仮設住宅で動物を飼わせてください」と依頼をしました。しかし、「それは市町村が所管してい



【スライド 25】

動物の救済活動

- フード等の提供
- 動物関連備品貸与
- 動物同伴テントの設置
- 仮設住宅動物入居支援
- 仮設住宅等飼育支援
- 一時預かり
- 負傷・疾病治療・健康管理支援
- ボランティア派遣支援
- 山古志の動物救済
- 繁殖制限手術事業
- 広報
- 救済本部運営
- 救済基金運営
- その他

【スライド 28】



【スライド 29】

るから、県では判断できません」と言われました。仮設住宅の管理は市町村なんです。

そこで、保健所の課長さん方から、市町村に出向いてもらって仮設住宅で動物が入居できるようにお願いしてもらいました。その結果、新潟県内の仮設住宅でペットの飼育が可能となりました。そして、それについては、県が全面的にバックアップをいたしました。

それから、動物の一時預かりもいたしました。ペットの健康管理の支援もいたしました。この健康管理の支援については、獣医師会に話しをして協力してもらいました。

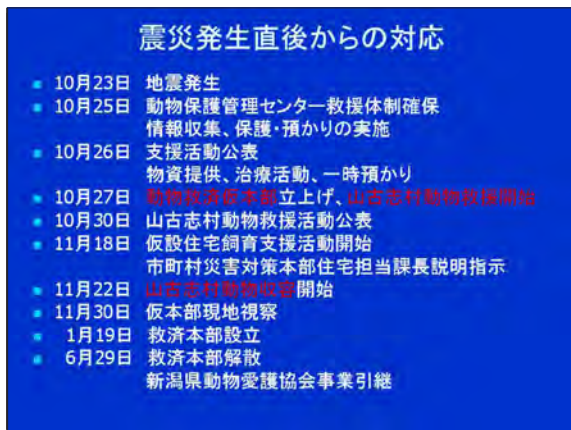
それから全村避難となった山古志村での動物の救済活動をやりました。

また、ペットの繁殖制限手術もやりました。これらは、県内の5カ所の小さい動物保護管理センターで対応しました。【スライド 28】【スライド 29】

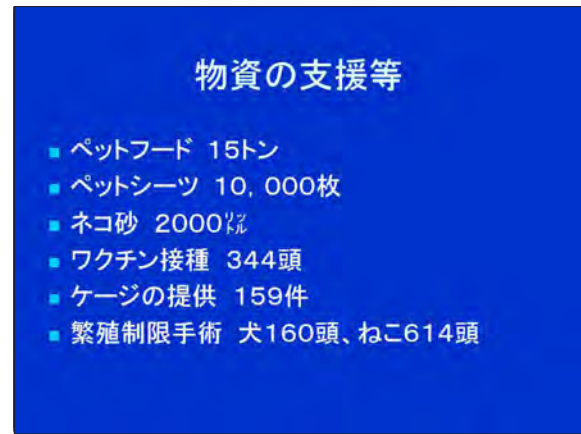
これは時系列ですけれども、23日に地震が発生してから25日に救援体制を確保して、26日の夜にマスメディアに公表いたしました。

27日には緊急災害時動物救済仮本部を立ち上げ、動物の救援を開始しました。

支援内容はペットフード、ペットシーツ、猫砂の提供、ワクチンの無料接種などです。これらに使用する医薬



【スライド 30】



【スライド 31】



【スライド 32】

品は獣医師会から動物用医薬品協会のほうへ依頼してもらいました。最初は、お金がないので全部無償でいただきました。ケージは東京の緊急災害時動物救援本部へお願いをしていただきました。

繁殖制限手術は無償で、犬162頭、猫614頭について実施しました。

これが備蓄していたフードですけれども、緊急に放出をいたしました。【スライド 30-32】

ここから山古志村での動物救援活動についてお話します。当時の状況が本になっています。朗読させていただきます。集合場所となったスポーツ広場に大勢の人が集まっています。自衛隊のヘリコプターが大きな



【スライド 33】



【スライド 34】

音をたてながら近づいてきました。一度に40人もの人が乗れる大きなヘリコプターです。プロペラの風で砂ぼこりが舞い上がり、目をあけてられません。子供やお年寄りが隊員に抱えられて次々に乗り込んでいます。次の列の中ほどに犬を抱いたおじいさんがいます。不安そうな顔をして自分の番が来るのを待っていました。「この子も連れていきたいんです。どうかどうかお願いします。」目にいっぱい涙をためて何度も何度も頼んでいます。「申しわけありません。動物は連れていけないことになっています。規則なんです。」「どうか一緒に避難させてください、もしだめなら私はここに残ります。」このときは2,000人以上の村民を脱出させなければいけない状況でしたので、荷物も制限されていました。そして、人命優先が至上命令だったんです。

このおじいさんも初めは犬を置いていこうと思いましたが、ただで集合時間が近づくとつれて、犬と別れることができなくなりました。先に避難しなさいと言われても、かわいがってきた犬を置いてきぼりにできるはずはありませんでした。命令だからとか、ほかの人に迷惑だからとか言われても、このおじいさんはあきらめることができませんでした。そしてこのときに一緒に避難した人たちがこの状況を見ていました。【スライド 33-34】

動物の救援活動

- 10月27日から、全村避難(10月25日)した山古志村へ、ヘリと陸路で生活衛生課及び動物保護管理センターの職員を派遣し、給餌・給水活動を開始した。
- 現地立ち入る際は、危険地帯への立ち入りとなること等から、生活衛生課職員と動物保護管理センター職員3~4人を基本に班を編制した。
- 11月22日以降は、収容活動もあわせて実施し、犬1頭、ねこ90頭、ハムスター2匹を収容した。

【スライド 35】

全村避難をしてから4日目、村には離れ離れになった動物だけが残っています。飼い主の人たちは置き去りにされた動物のことを思うと、いてもたってもいられません。飼い主の人たちの心の苦しみは膨れ上がるばかりです。そして、集合場所に犬を連れてきたあのおじいさんの姿が思い出されます。「きっとあのおじいさんはどんなに冷たい言葉を浴びせられても、どんなに恥ずかしい思いをしても、犬のためだったら我慢するつもりだったんだ。なぜ自分はあのおじいさんのように頑張れなかったんだろう」と悲しくなります。荷物の持ち出しの制限が1人2個までという制限がなされた中で、どうやって、動物を救援するかを考えなければなりません。【スライド 35】

このような状況の中で、当時の課長と私とで副知事のところをお願いに行きました。「山古志村にたくさんの動物が残されています。」「何とか山古志村に入りたいんです。動物を救うためにヘリに乗せてもらえますか。」「お願いしました。そのとき、副知事は「動物を救うことの意味はわかる。君たちの言うことはよくわかる。だけど人命が優先だ。」「だけど、ほかの業務のついでに行くならいいよ。」とおっしゃって、すぐにヘリの担当者を呼んでくださいました。「明日、この人



【スライド 36】



【スライド 37】



【スライド 38】



【スライド 39】

たちが山古志へ動物救援に行くんだけど、ヘリに乗せてやってくれ。」という話しをしてくださいました。そして、その日の夜、急遽準備を整え、翌朝4時から救援を開始しました。現地に入る際は危険を伴います。何か事故があっても業務が継続できるように、単一の職場から複数派遣せず、他の所属の職員とセットで派遣しました。

10月22日以降は収容活動も行いました。

最初は、現地で給餌給水と治療の活動を行いました。現地でえさをやって、現地で面倒を見ていました。しかし、11月以降になると、たくさんの雪が降ります。そうすると我々も現地で活動できなくなってしまいます。そこで動物の収容活動を行いました。

ただ、収容場所の問題がありました。新潟県は雪が降るので、簡易なシェルターでは管理が大変です。それでシェルターはつくらず、動物保護管理センターにコンテナハウスを設置して預かることにしました。また、獣医師会にお願いをしました。そうしたら、獣医師会の皆さんから「川上さん、大丈夫ですよ。200件の開業獣医師がいるから1匹ずつ預かったら200匹預かれますよ。」「2匹ずつだったら400匹預かれますよ。」と返事をいただきました。その後、県内の獣医師会各支部へ連絡をして収容場所を確保し、収容活

動に入りました。

これはヘリの中の写真です。手前の2人が私どもの職員です。その手前に私がいて写真を撮りました。奥が土木の職員です。ヘリの中はほとんど動物救援物資で埋まっています。消防防災航空隊の方からも助けていただきました。我々は災害発生後だれも訪れていないところへ入ります。誰も見たことのない現地の状況がつぶさにわかります。それを記録してきて、その日の晩に帰ってから、写真と一緒に対策本部へ報告しました。すると、その報告が次の対策に役立つんです。ですから、我々は動物の給餌救援活動に行きますが、それ以外にもできるだけ現地の状況を確認し報告し、それを復旧の資料として役立ててもらおうにしました。それがとてもよかったんです。それで何回か回を重ねるうちに「次はいつ行きますか？」と逆にヘリの担当から声をかけていただけるようになりました。動物を救う活動だけではなく、その他情報収集などできることは何でもやる姿勢が大切だと思います。

この写真のように現地では、車の中に犬が残されていました。飼い主は直ぐ帰って来て助けてやれると思って避難しますが、実際には帰るのに1年以上かかっています。避難した飼い主がどれだけ心配しているか、悲しんでいるかを考えなければなりません。

【スライド 36-40】



【スライド 40】

収容活動ですが、現地には車がたくさん残されています。しかし、他の人の車ですからお借りできません。歩いての活動になりました。衛星携帯電話で余震があるたびに本部に連絡をとりながらの活動です。残されたペットを発見します。ウサギもいました。

【スライド 41-46】

この地域は狂犬病の予防接種と登録注射率が100%の地域です。集合注射の時に、来ない人がいると担当が呼びに行くんです。ですからどの家が犬を飼っているか全部わかります。こういう情報があると、救

活動実績(10月末現在)					
月	活動日数(日)	派遣人数(人)	ヘリ(回)	車両(回)	備考
10	2	4	1	1	
11	13	44	6	7	
12	23	66	6	17	
1	2	4		2	
2	4	10		4	
3	5	12		5	
4	6	12		6	
5	7	15		7	
6	5	13		5	
7	6	16		6	
8	7	16		7	
9	6	13		6	
10	5	10		5	
合計	91	235	13	78	

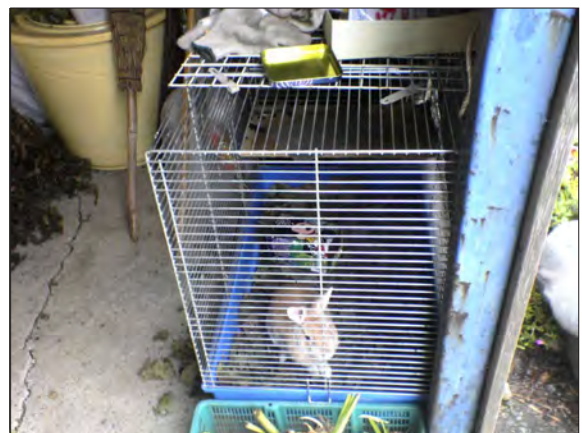
【スライド 41】



【スライド 45】

保護収容数等(16.12末)			
	犬	ねこ	その他
健康状態確認	43	40	16
保護収容数	1	90	2

【スライド 42】



【スライド 46】



【スライド 43】



【スライド 47】



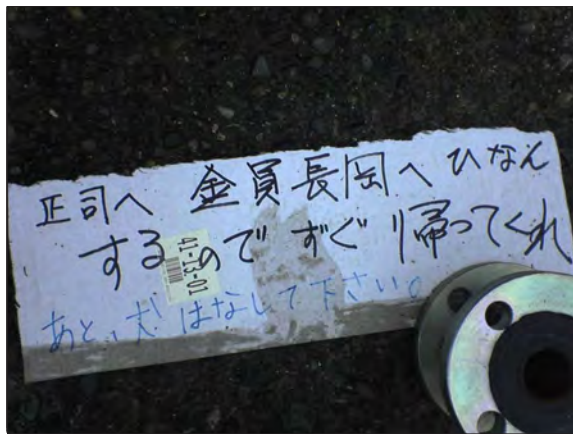
【スライド 44】

援活動がすごくやりやすいです。基本的な犬の登録とか狂犬病予防注射をしておくこと、猫はマイクロチップを入れておくことは、大切なことだと思います。

【スライド 47】

写真のように、道路にメッセージも残されていました。「全員長岡へ避難するからすぐ帰ってくれ、あと犬は放してくれ」と書いてあります。我々が活動しているのを知って、「猫がいますからえさをやってください」と、一時帰宅の時に玄関にメッセージが残されていたものもありました。【スライド 48】

飼い主から猫の写真を見せられて、この猫を飼って



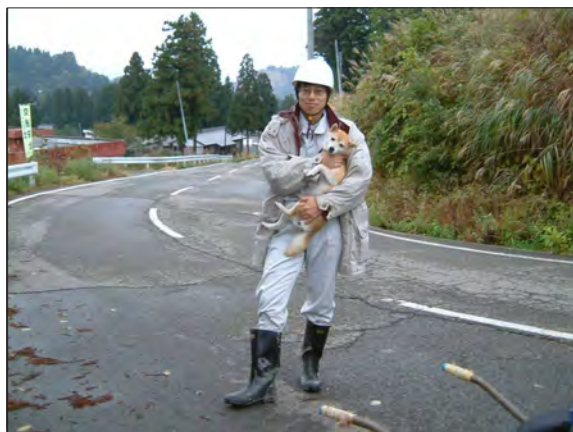
【スライド 48】



【スライド 49】



【スライド 50】



【スライド 51】

いたんですけど見つかりません、何とか探してくださいという依頼もありました。【スライド 49】

これはあるお宅に入ったときの写真ですが、玄関の靴箱の上に死んだネズミが置いてあるんです。おそらくこの家の猫が飼い主が帰ったら見せようと置いておいたに違いないと想像したんです。やはり、このお宅には猫が残されていました。【スライド 50】

彼は、最初に現場に活動に入ったうちの職員です。活動中に犬がついて来ます。帰るときには現地に残してこなければなりません。すごく切ない思いをします。あまり情をうつつさない方がいいのかもしれないと思いました。中には気性の荒いやつもあります。えさをやろうとしても近寄れないんです。ですから、えさ箱を長い棒で押し出して餌をやります。威嚇しながらも、えさはバクバク食べるんです。基本的なしつけは大切だなど思いました。【スライド 51】

この写真の犬はけがをしています。女性職員も行きましたが、一番困るのはトイレでした。現地には闘牛もいました。あるとき建物のシャッターをあけたら、中に闘牛がいてびっくりしました。闘牛は一応ペットですが、闘牛のえさは持っていないので、近くにあった飼料をやりました。そしたら、この大きい牛が涙をぼろぼろ流しながらえさを食べました。



【スライド 52】



【スライド 53】



動物の救援活動(残された動物たちとの再会)

【スライド 54】



動物の救援活動(餌を待つ)

【スライド 58】



動物の救援活動(運ばれた餌を食べる)

【スライド 55】



【スライド 59】



動物の救援活動(闘牛)

【スライド 56】



動物の救援活動(助けを待つ)

【スライド 60】



動物の救援活動(闘牛)

【スライド 57】

また、猫を飼っているお宅はほとんどが玄関の戸を少し開けてありました。

呼びかけると「にゃー」と言って出てきます。この写真は呼びかけで奥から出てきたリンちゃんという猫です。【スライド 52-60】

この写真は「山古志村のマリ」という映画を見た方がいらっしゃると思いますが、そのモデルとなった、本物のマリちゃんです。映画の中では、新潟県職員が給餌に行っていて助けているということは全然出てきませんでした。マリが干からびたコイをくわえている写真です。この方が船越(ふなこし)栄一郎(えいいちろう)



動物の救援活動(山古志村のマリ)

【スライド 61】

さんが演じた豊(ゆたか)さんです。ここに3匹の子犬
がいます。【スライド 61】



【スライド 65】

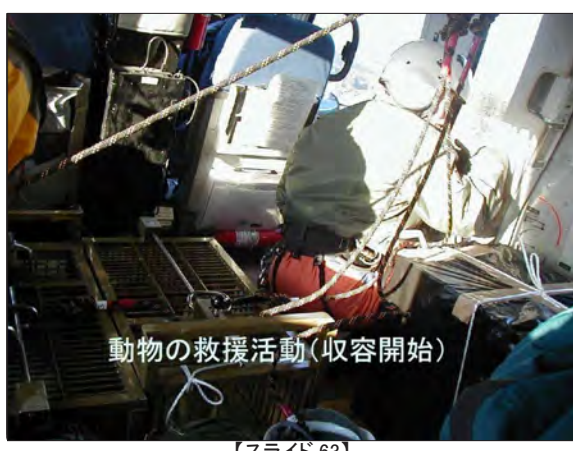


動物の救援活動(航空隊員の協力)

【スライド 62】



【スライド 66】



動物の救援活動(収容開始)

【スライド 63】



【スライド 67】



【スライド 64】





【スライド 68】



【スライド 70】



【スライド 69】



【スライド 71】

消防防災航空隊から助けていただきながら、給餌活動から収容活動に移っていきました。収容活動に移るとヘリの中は檻だらけです。写真のように道なき道を収容に向かいます。呼ぶと寄ってくるペットはすぐに収容できます。この猫は2 Kmも離れたところからこの家にやって来ていました。この家の猫を保護しようと仕掛けた檻に入りました。

収容活動から帰ってから、その日の夜に仮設住宅を回って飼い主を探します。猫の顔はなかなか見分けがつかず、「家の猫は茶トラです」と言われても茶トラはたくさんいますのでどの猫かわかりません。名札やマイクロチップは必要だと思っています。

【スライド 62-69】

緊急災害時動物救援本部の皆さんから視察に来ていただきました。このときは山口先生も来ていただいたと思います。【スライド 70】【スライド 71】

預かりもやりました。これもさっき話したとおり、疾病の予防ワクチンを注射しておかないと動物病院に入院しているほかの猫に病気が移っては大変ですので、ワクチンを打ってしばらく健康状態を確認してから、収容先の動物病院に運ぶようにいたしました。

預かり猫の写真です。最終的には 250 匹位預かりました。この地震での預かり期間は最終的に 2 年位かか



【スライド 72】



【スライド 73】

動物の一時預かり

受入動物	犬	ねこ	その他	合計
預かり数	85	169	4	258

【スライド 74】



【スライド 78】



【スライド 75】



【スライド 79】



【スライド 76】



【スライド 80】



【スライド 77】



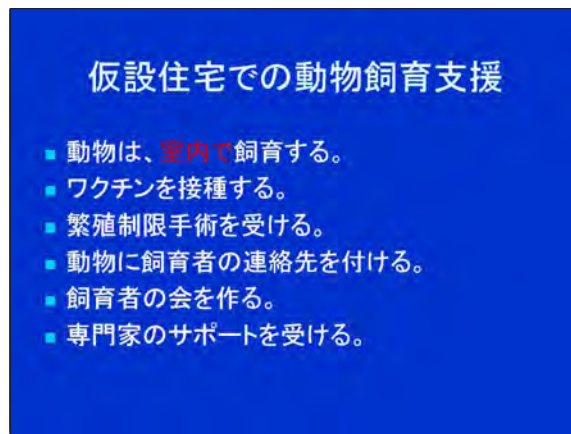
【スライド 81】



【スライド 82】



【スライド 83】



【スライド 84】

- 動物は、**室内**で飼育する。
- ワクチンを接種する。
- 繁殖制限手術を受ける。
- 動物に飼育者の連絡先を付ける。
- 飼育者の会を作る。
- 専門家のサポートを受ける。



【スライド 85】

りました。それだけのお金も労力もかかります。
ボランティアの方から来ていただいて掃除をしてもらいました。そういった中で収容活動を続けることができました。【スライド 72-79】

季節が変わり雪が降りました。雪の中を歩いて活動します。私が撮った写真です。写真を撮って記録に残すことはすごく大切です。後から皆様にお話しをするときに、話だけではなかなかわかっていただけません。必ず写真を撮っておくことが大切です。仕事をしながら写真を撮ることはすごく労力が要りますが、やらなければなりません。

この年は、19年ぶりの大雪になりました。こうなると、助けに行くのは大変です。でも、こんな雪の中を猫がえさを食べに来るんです。【スライド 80-83】

ここから仮設住宅の話します。

一応ルールをつくりました。室内で飼うこと。しかし、実際は室内で飼っていなかったところもたくさんありました。ワクチンを注射すること。繁殖制限手術をすることです。なお、繁殖制限手術は無償としました。それと動物にちゃんと名札をつけておくことです。どこのお宅の猫か犬かわからないと困ります。飼育者の会も立ち上げました。【スライド 84】



【スライド 86】



【スライド 87】



【スライド 88】

これは、東日本大震災の福島の状態です。中越大震災と同じ状況となっています。

これは中越大震災の時の写真です。山古志村で保護した猫を仮設住宅に住む飼い主に届けたところです。マイクロチップが入っていればすぐわかるんですが、そうでないとなかなか飼い主にめぐり会うことはできません。

この写真は、仮設住宅での飼育許可が出ていましたが、住民の話し合いで近くに飼育小屋を設置してその中で飼育することとなった場所です。中はこのようになっています。「エアコンを取付けますよ。」と言いましたが「エアコンはいりません。」とのことでした。ところがこの様子がある団体の方が見て、「何てかわいそうな飼い方をするの。新潟県は血も涙もないんじゃないの。」と言われました。「でも、これは飼い主さんの希望なんですよ。」と伝えました。山古志では、冬でも玄関など暖房のない所で犬を飼育していました。【スライド 85-89】



【スライド 89】

ここからは譲渡の話です。飼い主が見つからないから処分するということはできませんので、飼い主の見つからないものには新しい飼い主を探しました。譲渡会を開催しました。「山古志村の猫です。」というだけでどんどんもらわれていきました。ボランティアの方も応援に来てくださいました。ボランティアの方は、自分達の猫もついでに譲渡していました。これは新しい家族との写真です。【スライド 90-96】

これは、最後にもらわれたロッキーという犬です。飼い主の方が仮設住宅から民間のアパートに入ることになり、手放したものです。NHKの番組にも取り上げられました。【スライド 97】

それでも、なかなか飼い主が見つからないものもいます。これが一番最後まで残った猫です。ボスという名前です。多分野良猫だったんだろうと思っています。猫免疫不全ウイルスを持っていました。この猫は、私がケージに指を入れたら、ツメで私の指を引っ張って「がぶっ」とかみつきました。血がぴゅっと出たんです。動物保護管理センターの職員で猫を飼ったことのない者は猫のツメを切っておくことを知りませんでした。そういうことも勉強しなければならなかったです。【スライド 98】



被災動物の譲渡会



【スライド 90】



【スライド 94】

3会場で譲渡会を実施した。

対象動物	対象数	譲渡数	未譲渡
犬	3	3	0
ねこ	28	25	3

【スライド 91】



被災動物の譲渡会(ボランティアの応援)

【スライド 95】



被災動物の譲渡会(魚沼会場)

【スライド 92】



被災動物の譲渡会(新しい家族)

【スライド 96】



新しい家族

【スライド 93】



被災動物の譲渡会(新しい家族)

【スライド 97】

最後まで残ったねこたち



ヒゲ

白黒 ♂ 去勢済み
● Fiv(+), Felv(-)

ボス

白黒 ♂ 去勢済み
● Fiv(+), Felv(-)

トラ

白茶 ♂ 去勢済み
● Fiv(-), Felv(-)

Fiv:ねこ免疫不全ウイルス
Felv:ねこ白血病ウイルス

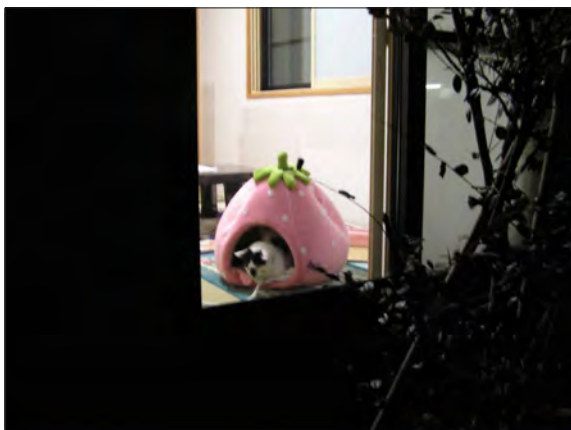
【スライド 98】



【スライド 99】



【スライド 100】



【スライド 101】

そして、とうとうボスがもらわれました。

新しい飼い主が見つかるまで2年かかりました。新潟市内の方にもらわれたんです。私にかみついたのに、ここのお宅に行ったら直ぐに奥様のひざの上に乗って自分から抱かれました。すっかり落ちついているんです。この方は猫用ベッド、トイレ、ミルクなどを用意してくださいました。家に入ったら早速えさを食べていました。我々が帰るときにはすっかり自分のベッドに入っていました。このことを知事に報告したら、知事は記者会見で発表してくださいました。おそらく、日本で唯一知事に記者発表してもらった猫だと思いません。【スライド 99-101】

この猫が平成19年の7月に亡くなりました。このこともこの本に書いてあります。少し読ませていただきます。「亡くなる前の晩ボスはいつもと違ってずっと鳴き声を出していたわね。もうお別れだということがわかって、最後の力を振り絞ってお話ししてくれたのね。もっともっと長生きしてほしいわね。」ボスは「ありがとう幸せだったよ。」と答えています。

【スライド 102-104】

この猫が亡くなって1週間後に再び新潟県で中越沖地震が発生しました。しかし、中越大震災後に策定された新潟県地域防災計画の中に動物の救護対策について

平成19年7月11日ボスの死

- 最初にボスに会った時、抱き上げようとしてケージに手を入れましたら私のひとさし指に爪を立てて「がぶっ」とかみつきました。
- しかし、他の猫にないふてぶてしい顔をしていましたので、大好きな猫になりました。
- 飼い主が見つからず保健所ですっと面倒を見ようとしていた矢先にやさしい飼い主が見つかりました。
- 一同飛び上がって喜んだことが思い出されます。
- 知事に報告したところ、記者会見で発表してくださいました。
- 「ボス」は震災時の動物救援活動の象徴だったのかもしれない。
- みんなに心配され愛されてボスは幸せだったと思います。

【スライド 102】

相沢さんコメント

- 亡くなる前の晩、ボスはいつもと違って、ずっと鳴き声を出していたわね。
- ボスはもうお別れだということがわかって、最後の力をふりしぼってお話ししてくれたのね。
- もっと、もっと長生きしてほしいわね。
- でも、心を通い合わせた毎日は楽しかったね。
- ありがとう、ボス

【スライド 103】

ボス

- 僕のことを大事にしてくれてどうもありがとう。
- ぼくは本当に幸せだったよ。
- おかあさんのこと、みんなのこと、いつまでも忘れないよ。

【スライド 104】

新潟県地域防災計画

■ 愛玩動物の保護対策

1 計画の方針(抜粋)

県は、市町村等関係機関や県獣医師会、県動物愛護協会等関係団体と協力体制を確立するとともに、県獣医師会、県動物愛護協会等と「動物救済本部」を設置し、飼い主の支援及び被災動物の保護を行う。

【スライド 105】



【スライド 106】

2 飼い主の役割

動物を同伴して避難できるよう、訓練を行っておくとともに、連絡先を記載した名札等の装着、ワクチンの接種、動物用避難用品の確保に努める。

【スライド 107】

て掲載しておきましたので、スムーズに対応できました。この地域防災計画の担当者は動物救済活動のときにヘリを手配してくれた担当の課の人でした。私どもの活動をよく理解してくれて、当時策定した「地域防災計画に動物救済対策も是非掲載しましょう。」と言ってきてくれました。【スライド 105-106】

地域防災でまず大切なことは、飼い主の役割です。ペットは家族であり、飼い主のものでありますから、その飼い主が最初に自分のペットを守る役割を持つということです。何かあったら行政に頼むのではなく、まず自分で守る姿勢が必要です。人間の家族と同じことです。それと、かみつかないように躰けておくこと。連絡先を首輪などに付けておくことです。【スライド 107】

次に、県の役割として所要物資は確保すること。動物の保護を行うということです。この度の東日本大震災でも新潟県に避難してこられた方は、避難先に設置

3 県の役割抜粋

- 所要物資確保に努める。
- 動物の保護を行う。
- 動物救済本部を設置する。

【スライド 108】

された避難所併設の動物収容施設に動物を預けました。これは新潟県が新潟県地域防災計画により、3月18日に緊急災害時動物救済本部を立ち上げ設置されたものです。ところが、隣県ではどうでしょう。設置されていませんでした。私は、それは問題だと思います。全国それぞれの自治体がばらばらに活動をしている、なかなかうまくいかないと思います。【スライド 108】

次に、市町村の役割です。避難所を設置するにあたっては、ちゃんと動物を受け入れられる施設を設置すること。それから、地域の総合防災訓練でペット同伴の避難訓練を行うことです。【スライド 109】

獣医師会の役割や新潟県には新潟県動物愛護協会という団体がありますが、そこにも役割があります。

【スライド 110-112】

災害への備えということについてですが、何が大切かという、私は次の五つだと思います。一つめは信頼関係を確立すること。これは人と動物、ほかの犬と

4 市町村の役割

- (1) 県と協働し「動物救済本部」に対し、避難所・仮設住における愛玩動物の情報を提供し、及び活動を支援する。
- (2) 避難所を設置するに当たり、動物同伴の避難客を受け入れられる施設を設置する。
- (3) 避難訓練時には、動物の同伴に配慮する。

【スライド 109】

新潟県中越沖地震

【スライド 113】

5 (社)新潟県獣医師会の役割

- (1) 県と協力し「動物救済本部」を設置し、動物の救済活動を実施する。
- (2) 緊急動物用医薬品の備蓄及び緊急配送体制を整備し、発災直後の県・市町村からの要請に備える。

【スライド 110】

被害状況

- | | | |
|----------|---------------------------------|---------|
| 1 人的被害 | 死者 | 15名 |
| | 負傷者 | 2,345名 |
| 2 住家建物被害 | | 41,917棟 |
| | (全壊) | 1,319棟 |
| 3 その他 | | |
| | 東京電力柏崎原子力発電所の火災
および放射能漏れ事故など | |

【スライド 114】

6 (社)新潟県動物愛護協会の役割

- (1) 県と協力し「動物救済本部」を設置し、動物の救済活動を実施する。
- (2) 会員の中から派遣可能なボランティア情報を集約し、動物救済本部へ提供することにより被災地でのボランティアの円滑な活動を支援する。

【スライド 111】



【スライド 115】

7 動物救済本部の役割

必要に応じ、緊急災害時動物救援本部に応援を要請し、次の活動を行う。

- (1) ペットフード等支援物資の提供
- (2) 動物の保護
- (3) 相談窓口の開設
- (4) 動物の一時預かり
- (5) 飼い主さがし
- (6) 仮設住宅での動物飼育支援
- (7) 被災動物の健康管理支援
- (8) ボランティア及び募金の受付・調整・運営

【スライド 112】

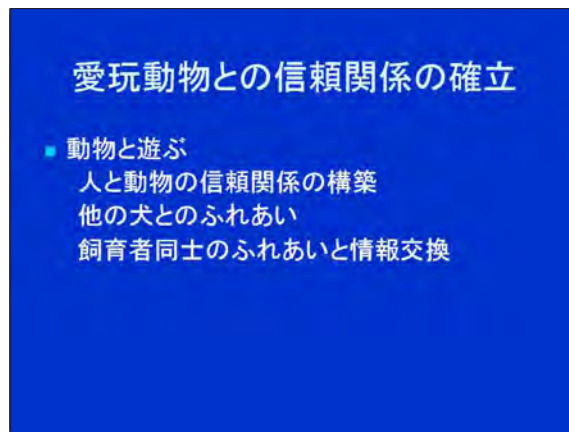
新潟県中越沖地震動物救済本部の設置

- 新潟県地域防災計画に基づき設置
- 設置者・・・県・県獣医師会・県動物愛護協会
- 事務局・・・県福祉保健部生活衛生課内

【スライド 116】



【スライド 117】



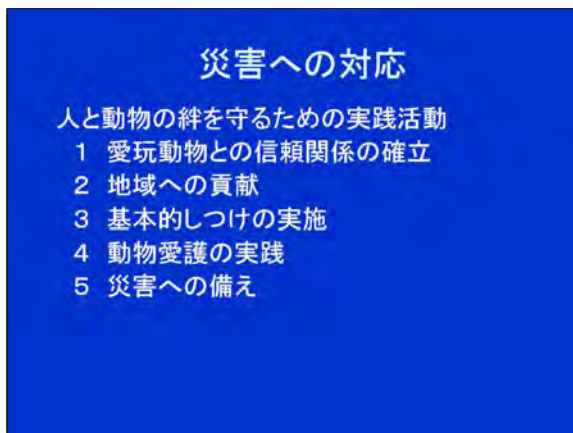
【スライド 120】



【スライド 118】



【スライド 121】



【スライド 119】



【スライド 122】

の触れ合い、飼育者同士です。

二つめは、地域への貢献です。ペットの飼い主は地域のためにこんな役に立つことをやっていると啓発していくべきだと思います。

三つ目は、基本的なしつけです。

四つ目は、飼育者自らの動物愛護活動の実践です。

五つ目は、飼育者自らが、災害への備えをきちんとやっておくことです。ワクチンの接種ですとか、非常用物資の備えですとかをきちんとしておくことです。

【スライド 118-119】



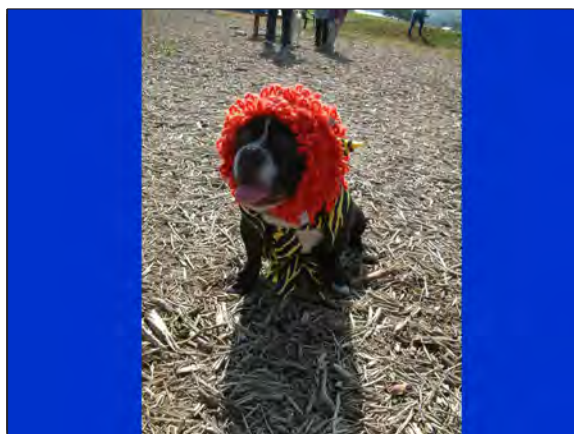
【スライド 123】



【スライド 124】



【スライド 127】



【スライド 125】



【スライド 128】



【スライド 126】



【スライド 129】

まず、信頼関係の確立についてですが、この写真は犬の運動会ですけれども、飼い主と動物が楽しく一緒に遊びます。これは実は飼い主さんが一番楽しんでるんです。ペットより飼い主さんが大喜びをして遊んでいます。これが大切なんです。ここで情報交換ができて、お友達になります。

これはえさ食い競争なんですけれども、どんな容器でも食べられるようになるんです。うちのペットは専用の容器じゃないと食べられない等ということがなくなります。【スライド 120-123】

これはペットのハロウィンパーティーです。これも



【スライド 130】



【スライド 131】



【スライド 135】



【スライド 132】



【スライド 136】



【スライド 133】

賛否両論あると思いますが、飼い主がすごく喜んでるんです。そして、これは例えば手術をしたときにエリザベスカラーをつけるとか、ペットの足の保護のための靴下をはかせるとかの訓練にもなるんです。飼い主が喜びながら一緒に楽しむ、犬は楽しんでいるかどうかちょっと微妙ですけど、飼い主は本当に喜んでいます。【スライド 124-128】

地域貢献についてですが、地域のために何でもできることをやることです。ごみ拾いや触れ合い訪問活動などのことです。

訪問活動の写真ですが、この方は役場の職員です。



【スライド 134】



【スライド 137】



【スライド 138】




【スライド 142】



【スライド 139】

動物同伴総合防災訓練

- 管内湯沢町の総合防災訓練への参加
- 2009年9月13日(日)
- 犬17頭, ねこ1頭で参加



【スライド 143】



【スライド 140】



【スライド 144】



【スライド 141】

県だけではなく、市町村も巻き込みます。行政同士一緒にやるのが大事なんです。【スライド 129-142】

動物同伴の避難訓練もやりました。これは民間のドッグランの協力を得て、施設の中に瓦礫を置いて歩く訓練をやりました。その他、ケージに複数入れる練習などです。

それから、町の総合防災訓練に動物同伴で参加しました。

私が保健所に勤務していたときに町に話をして、町の主催する総合防災訓練に加えてもらいました。一般参加者がいる会場へ犬を連れて来た人たちがぞろぞろ入っ

ペット避難受付
行政機関の受付



【スライド 145】



【スライド 149】

ヘリでの訓練



【スライド 146】



【スライド 150】

炊き出しを食べる参加者



【スライド 147】

東日本大震災での対応



【スライド 151】

煙体験訓練



【スライド 148】

福祉避難所のボランティア



【スライド 152】

てきます。【スライド 143-144】

受付は町と県でやりました。一般の人達に混じって、非常食を食べ、煙体験にも参加しました。最後に、一般参加者と一緒に整列し、ペットを飼っている人もいることをPRしました。【スライド 145-150】

これは、東日本大震災で避難されてきた皆様のための福祉関係の避難所のボランティアさんの写真です。この避難所には妊婦さんとか小さいお子さんを連れたおかあさんとか、介護を要する老人の方とかが避難しておられます。ボランティアの方に「食事は何を食べているんですか?」と聞いたところ、「ジャムパン、バナナ、それからお握り、お弁当を食べています。」とのお話でした。そして「温かい食べ物がおすごく喜ばれているんです。」ということでした。長岡市にお住まいの小さなお子さんのいる若いお母さん方が manma(マンマ) というボランティア団体をつくってここの避難所を支援しています。今私は、食肉衛生検査の仕事をしています



【スライド 153】



【スライド 154】

ので、関係者にお話したところ、「私にもぜひ協力させてください。」と食肉関係の会社の経営者から支援の申し出がありました。「震災以降何が役に立ちたいと思っていましたがどうしたらいいのかわかりませんでした。いい話をうかがって良かったです。」と言っておられました。今でもお肉の支援をしていただいております。



【スライド 155】



【スライド 156】



【スライド 157】

【スライド 151-152】

この写真は、ちょうど小学校が代休だったのでお子さん達がいるときにボランティアが食事の炊き出しに行ったとき子供達が、「わあい、お肉だお肉だ!」と喜んでくれた時のものです。食肉関係の会社から高級なお肉が提供されていますので、味のわかる子供達が喜んでくれるんです。【スライド 153-156】

この写真がボランティアグループ manma の皆さんです。【スライド 157】

東日本大震災は、3月11日に発生しましたが、新潟県は18日に新潟県緊急災害時動物救済本部を設置しました。これも地域防災計画に記載してありましたので

3月18日新潟県動物救済本部設置

新潟県動物救済本部は新潟県地域防災計画及び新潟市地域防災計画・・・に鑑み通常の飼育が困難になった者及び被災動物に対し支援を行う

【スライド 158】

新潟県への避難動物3月17日



【スライド 180】

3月18日新潟県動物救済本部設置

- 支援物資の提供
- 相談窓口の設置
- 一時預かり(悪癖、高齢、病気等)
- 避難動物の健康管理支援
- ボランティアの受付等

【スライド 159】



【スライド 162】



【スライド 160】



【スライド 163】

新潟県への避難動物3月17日



【スライド 161】

すぐに立ち上げることができました。【スライド 158-159】

この写真は 18 日の動物救済本部を立ち上げる前日に、急遽ペットの保護施設をつくっているところです。

【スライド 160-165】

昨年 3 月 31 日現在 9,000 人だった新潟県への避難者ですが、今年の 2 月になってもまだ 7,000 人の方が避難しています。これからも我々は、直接救援へは行けなくても何かできることを支援していきたいと考えています。

以上です。ありがとうございました。

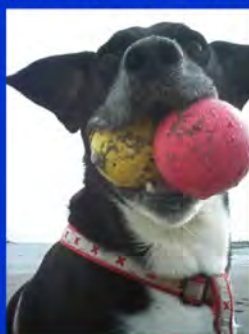
新潟県への避難者

- 23年3月31日 9, 222人
- 24年2月 3日 7, 095人



【スライド 164】

ありがとうございました。



【スライド 165】